

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600333		
法人名	社会福祉法人さゆり会		
事業所名	ゆたっとはうす		
所在地	長崎県五島市下崎山町716番地5		
自己評価作成日	平成22年1月1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・東に五島灘の海、西に火の岳を望む大自然に囲まれた環境の中にホームは建てられています。海からの朝日、四季折々の窓辺の景観は、入居されている方々の目を楽しませ心に潤いを与えます。畑に出かけ農作業や園芸にて収穫の喜びや料理をする事も、心と身体のリハビリとなります。地域の方々の出入りもあります。また、地域の一員として地域へも出かけます。ご家族様との定期的な夕食会では、楽しいひとときを過ごします。併設のデイサービスセンターの利用もまた、馴染みの交流があります。一人ひとりの笑顔を大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

五島の海沿いを車で走っていると、海に面した所にいくつかの建物が見えてくる。その建物の一角にホームもあり、目の前の海と空が複合施設と一体化し、絶景の景色となっている。ホームの愛犬に大歓迎を受けながら中に入ると、先ほどの景色が、そのままリビング等から眺められる設計となっている。木製の引き戸や木製の表札等は、昭和時代を思い起こす造りとなっており、ご利用者と職員が磨き上げている廊下は清潔感にあふれている。リビングでくつろぐご利用者の笑顔、管理者・職員の温かい笑顔は、毎年変わらず来訪者を温かく迎えて下さる。ホームが住宅地から離れた場所にあるため、ホームを訪れて下さる方々を増やしていきたいと願ってきた。ホームには、ご家族、地域の方々、医師、訪問看護師、PT、新しく赴任された駐在署の警察官、地域行事である“トマト”や“おもりさん”の訪問もあり、皆、ホームを支えて下さっている。“地域行事”にも積極的に参加し、マラソンや駅伝の時には応援グッズを作り全員で応援している。ご利用者の思いや言葉を綴った“気付きノート”の作成、管理者手作りの意見箱等、常に変わらず前向きな取り組みを行っているが、22年春、管理者が交代する。法人とホームの理念を共有している職員が引き継ぎ、変わらず“ゆたっとはうす”の生活は続いていく。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員は念頭に置きながらケアに努め、ミーティングや気付きを重視し、実践に取り組んでいる。	「ゆっくり・楽しく・笑顔で」の基本理念の下、「一人ひとりのリズムやペースを大切にします。一人ひとりの自尊心を守り大切にします。地域に貢献し家族と共に楽しめる時間を大切にします。」との言葉を掲げている。職員は、ご利用者の思いやできることを念頭に置き、その方らしく生活を送って頂けるよう、日々理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方より敬老会への参加の依頼、また毎年恒例チョコ、へトマトの見学を行っている。 マラソンや駅伝の時には、応援グッズを作り全員で応援参加しました。本年度は小・中学校の運動会に参加しました。	ホームは住宅地から離れている為不便な点はあるが、地域との交流が持てる様に、ホームの方から積極的に働きかけを続けている。今年初めて、地域の小中学校合同の運動会へ応援に出かけた。中学生のボランティア受け入れは、毎年行っている。また、地域行事である“へトマト”や“おもりさん”のホーム訪問は、毎年恒例の行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の定期開催や、ホーム広報による様々な生活の様子が伺える様に、その方々の場面、場面の写真掲載をおこなっている。商店街に出かけ買い物や軽食等をおこないながら、徐々に理解して頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、入居者の状況報告や行事報告等を行っている。参加者の方々のご意見など会議のままを記録に残し、ご家族様に送ったり職員への報告もしている。新しく赴任された駐在所巡査部長様の参加もして頂く	ご利用者・ご家族・民生委員・市職員に参加して頂いている。新しく赴任された駐在所の警察官にも参加頂き、ホームの状況を知って頂けた。ご利用者には、負担にならないように交代で参加して頂いている。会議を通して、地域の情報を頂いたり、地域の行事に参加する際の介助の工夫等について話し合いが行われている。	昨年は、駐在所の警察官にも参加頂けた。ホームでは、会議の場を通して、出席者の方から更に意見を頂けるように工夫をしていきたいと考えており、参加メンバーの検討も続けていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請時や報告書の提出、ホーム便りの配布など役所へ訪れる機会を図りながら、情報交換に努めている。	市の担当者の交代があったが、交代後も運営推進会議には毎回出席して頂いており、これまでと変わりなく良好な関係が保たれている。日頃から、新型インフルエンザに関する事等、ホーム運営に関する情報を提供して下さったり、スプリンクラー設置の助成を受ける為の申請の際にも快く対応下さり、無事に設置することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けている。定期的な話し合いが行われており、報告を受け情報共有に努め防止に取り組んでいる。夜間21:30~朝7:00までは防犯の為施錠しているが、日中は鍵はかけておらず外出された場合には職員も一緒に行動されている。	ホームでは、職員の見守りによるケアを実践し、身体拘束は行っていない。日中ホームでは施錠することなく、自由にホームと外を行き来できる環境が保たれている。離床時に介助が必要なご利用者には、コールを鳴らして知らせて頂いたり、コール使用が難しいご利用者には、了解頂いた上でセンサーマットを置き、見守りを強化して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な身体拘束委員会に於いて話し合い、情報共有を図り、虐待に関する防止の意識付けに取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の折に関連し、話し合う機会を設けたり資料配布等にて、職員間で周知できる様に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	* ご家族様の状況に応じて、自宅にて説明させて頂く事もあり、できる限り不安や心配を抱くことがない様に質問にお答えし、納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方の面会の時や、夕食会の折に気軽に話ができる様に職員間で心掛けている。また、広報誌にコメントを載せたり、意見箱を設置してできるだけ意見を表せる様に取り組んでいる。	管理者手作りの赤いポストの意見箱が、玄関に置かれている。ご家族は運営推進会議に参加されており、会議の場や面会の機会を通して意見を頂いている。2ヶ月に1回、家族会を行っており、多くのご家族に参加して頂けるよう、できるだけ早めに日時の連絡をしている。頂いた意見は運営推進会議で検討され、家族にも記録を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やケース会議等の際に意見や提案をあげて話し合う機会があり、反映される様に図られている。また、個人的に面談を行うこともあり話しやすい雰囲気づくりに努めている。気付きノートによる活用も生かされている。	日々のケアの方法や研修内容の希望など、職員からの提案がある。法人の全体会議の中で、それぞれの事業所ごとに意見を出し合い検討が図られている。法人全体の年間計画においても、ホームから研修内容について提案し、認知症の方との関わり方や接遇についての研修が行われることとなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等の奨励、個々の意欲・意見が反映される様に、勤務体制に於いても考慮されている。また職員全てに於いて資格実績の把握に努め、条件の整備も取り組んでいる。能力開発シートの各自取り組みもされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体の年間計画があり、職員全員が研修を随時受けられる様に努めている。また、個々の職員に応じた外部研修の機会の確保や希望による研修も図られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等に於いては、事前の報告があり交代で参加できる様に配慮されている。また、定期的な連絡協議会への参加もあり、事例検討会や他の事業所との情報交換によりホームのサービスの向上に努めている。相互訪問の計画もされている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態に配慮し、心地よい雰囲気作りに留意している。一方的ではなく、安心して本人から伝える事ができる様に傾聴し、その関係づくりに取り組んでいる。また、ケアマネや家族からの情報提供もされている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の時間、場所など考慮しゆっくりと話せる雰囲気作りに配慮し、意見や要望等が伝えられる様に努めている。ケアマネや事業所からの情報提供もあり、ご家族の意向が反映される様に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の心身の状況の変化、把握に努めながら随時、必要とされるサービスの提供ができる様に、職員間での気付き、情報共有を図り対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意なこと、好きな事、できそうな事など含め、職員間の情報共有を図りながら、その場面づくりに努め、活かされ、「自分の存在が大切である。」と思えるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との関係が途絶えない様に、ホームの様子や暮らし方など報告を行いながら、連携に努めている。また、行事等の協力や季節の家庭菜園の差し入れもして頂き、本人も安堵感があるオリジナル年賀状を家族の方へ出しました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域や以前からの行きつけの美容院、歯科医 の利用、また姉妹、知人宅の面会など 随時対応できるように取り組んでいる。自宅、墓参りへでかけたりされている。	ホームでは、入居前からの馴染みの方の訪問があり、中には数年ぶりに会いに来られた方もおられた。また、ご利用者が馴染みの方に会いに行くことを希望された時は、相手の方へ事前に連絡を取り次ぐ等の支援を行っている。職員と一緒に馴染みの海水浴場に出かけたり、ご家族の協力を頂きながら、墓参りに出かけるご利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身状況を職員間で情報共有し、利用者同士の関係が落ち着き、安心して過ごす事ができる様に配慮している。不安の訴えをされている時には、やさしく声かけされる方もおり相談にのっている場面がある。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームに來られ行事のお誘いをして頂いたり、遊びに來させて下さい等、継続した関係作りを職員一同努めている。マラソン大会出場の際には、皆で応援グッズ制作に取り組みました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で個々の訴えや思いをきちんと受け止めこれまでの生活を大切に継続出来るように、努めている。心身の状況に応じて、ゆっくりと時間をとり傾聴し、意向の把握に取り組んでいる。	ご利用者と行動を共にする中で、ご利用者の日々の言葉や表情から思いをくみ取り、気付きノートに記録している。また、訪問に來られたご家族と話をする機会を持ちながら、ご利用者やご家族の意向の把握に努めている。気付きノートに記録した日々の気付きは、ご利用者ごとに作成した“気持ちシート”にまとめ、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での気付き、新しい情報等を含め職員同士で周知し、個々の生活の把握に努めている。随時状況に応じ、サービスの対応も図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの意思を尊重し、自室で過ごされたり、寂しがりやさんや何かしていないと落ち着かない方、まだ何かできそうな方等、個々のペース日々の体調を考慮し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間に於いての気付き、検討、定期的な訪問看護師・PTによる助言、利用者との日々の関わりの中での思い、また家族の意向など頂きその思いが反映できる様に、職員間で情報共有を行いながら取り組んでいる。	計画作成担当者が作った原案を、会議の中で職員全員で検討し、計画を作り上げている。計画には、「裁縫が得意なので計画に組み入れてほしい」といったご家族からの提案やお墓参り外出といったご利用者の希望を組み入れたものになっており、主治医や訪問看護師からの助言も頂きながら、作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子や実践、状況、気付きなど介護計画実行表へ記載している。状況の変化など随時気付きノートを活用しながら、職員間での情報共有を図り検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り要望に対応できる様に、勤務状況や行事、時間等の調整を行いながら、本人、家族が安心して頂けるように取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加呼びかけをして頂いたり、情報提供を図りながら、学校・地域の方へ出向き、安心した暮らしの関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に受診されており、心身状況に応じて随時、意見や要望を伺いながら他の医療機関も利用されている。	およそ半数のご利用者は、入居する以前から利用されていた医療機関へ受診されている。通院介助は職員が行うが、必要に応じてご家族にも同行して頂き、主治医からの説明を受けて頂くこともある。受診結果については、電話連絡や定期的の手紙での報告を行う等、ご家族の希望に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護日に合わせて事前に気付き等まとめ、個々に報告し助言を頂いている。職員間の周知を図る為、記録の確認も行っている。緊急な場合にも随時適切な対応ができる様に、支援して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から定期的な受診時の主治医・看護師との関係作りに努めている。入院時・退院時に於いても必要な情報提供を行い、家族と共に同伴させて頂いている。入院中の経過報告も地域連携室より電話を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状況の変化を見極め、本人・家族の意向を確認し、主治医との情報交換を図り早期の対応に努めている。また、訪問看護師による助言・指示を仰ぎながら方針の共有、支援に取り組んでいる。	ホームでは、ご利用者やご家族の希望に応じ、ご利用者の精神的なケアを中心とした「看取りの介護」を行っており、入居時にホーム独自の「看取りの指針」を説明し、同意を頂いている。週に1回訪問看護師の訪問の他、月に1、2回ホームの協力医の往診があり、必要時は夜間の往診にも対応して頂ける。ご利用者の状態の変化が見られた時も迅速に対応頂ける体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が2年に1度の救急法を受講している。定期的な訪問看護師による心身状況に応じた処置の方法を学び、実践に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に消防署・防災設備会社の協力を経て避難訓練や消火器の使用方法等の訓練を実施している。	ホームでは、ご利用者と職員と地域の消防団員が参加し、年に2回の避難訓練を行っており、夜間想定も実施している。訓練には、防災管理業者に立会って頂き、助言を頂いている。昨年1年間は、消防署職員の訓練への立会いはなかったが、今年はAEDの使用法の指導と合わせて、避難訓練へ参加頂き、指導を受ける予定である。	今後、非常時に備えた食料や毛布等の準備と、ご利用者の連絡先等が確認できる持ち出し用の個人カードの準備を検討している。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のケアに於いて、尊厳を大切に言動やケアに於いて留意している。職員間で気付きなど検討され、随時対応されている。	職員全員で接遇の研修を受けており、日々ご利用者への尊敬の気持ちを持ちながら支援に取り組んでいる。居室への入室の際には、必ずノックをしており、ご利用者に応じた言葉かけの仕方等、それぞれのご利用者に応じた配慮の方法を職員間で共有しながら、統一した支援が行えるようにしている。	職員には「自分では気付くことができない言動があるのではないか」という思いがあり、引き続き職員間で話し合いを持ちながら取り組んでいきたいと考えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが話やすい雰囲気作り、場の設定に努め思いが発信できる様に、職員間で情報共有を行いながら取り組んでいる。また、声掛けを行い外出やおやつ選びなど、選択場面作りに配慮されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身状況に応じて日々暮して頂ける様に、対応されている。無理はせず、本人のペース、希望を考慮し取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等の際には、事前に行きつけの美容室に出かけたり、衣類や小物など撰んで頂いたりしている。また、自分で選んだコロンや化粧水を使用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、煮炊きの準備、切る、盛り付け、味見、片付け等できる事や、興味を示す事など職員と一緒にして頂いている。	ご利用者の希望を伺いながら献立を作り、職員が持ってきた魚や、ホームの畑で収穫した大根やかぼ等、旬の食材を使った料理が出されている。父の日に夕食をバイキングにしたり、昔の食べ物も提供され、ご利用者と一緒に、職員も楽しい食事の時間を過ごしている。テーブルには季節の花が飾られている。	今後、外食に出かけたり、ご家族と一緒にホームで寿司作りに取り組む等、より食事が楽しめるように取り組んでいきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間に於いてそれぞれの好み・調理方を把握されており、食べやすい形、大きさ等工夫されている。水分摂取量も記録されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔や状況に応じて毎食後の菌磨き・うがいなどして頂いている。自室でのお茶のうがいをされている利用者の方もいます。口腔ケアの研修もあり		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを周知しており、定期的にトイレ介助を行っている。オムツを使用されている方も食事毎にトイレで排泄されている。	ご利用者ごとの排泄パターンを把握している。尿意がましい方には、職員が誘導しながらトイレでの排泄を支援しており、職員が支援することでパットを使用する回数を減らすことができた。周囲に配慮しながらの誘導の声かけや、トイレのドアをきちんと閉める等、羞恥心への配慮も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事・水分摂取量の確認を行っている。訪問看護師による助言を頂きながら予防に努めており、身体を動かしたり、繊維質の食材、水分摂取に留意している。必要に応じて主治医と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調やその時の心身の状況に応じて、入浴ができる様に取り組んでいる。好む時間帯、シャワー浴の使用、また本人専用のシャンプー等使用して頂いている。	ホームでは入浴時間や回数等は決めておらず、ご利用者の希望に応じた入浴ができています。入浴を好まないご利用者には“原因”は何かを知るように努め、その時の気持ちに沿った声かけを行い、安心して入浴頂けるように支援している。季節に応じて、菖蒲湯・ゆず湯を楽しむ、心身状況によって併設施設も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人の安心できる居場所があり、職員も把握している。心身状況を伺いながら声掛けをおこない休んで頂いている。就寝時に不安で眠れない方もおられ、落ち着いて頂ける様に時間をとりゆっくりと会話をしたり努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬について整理し、いつでも見られる様にしている。変更時にも随時確認を行い周知されている。薬があわない時など主治医と相談し、調整して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間で情報共有を行いながら、一人ひとりの趣味、好きな事、得意なこと、できる事、またできそうな事等を日々の生活の中で頂き、役割や楽しみ場面作りに努めている。ドライブ、買い物畑へ出かけたり気分転換に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	心身状態を考慮し本人の希望が叶えられる様に買い物、面会等の支援に努めている。また家族の協力を頂き墓参りも行く事ができた。ドライブや畑の収穫、散歩等が好きな方もおられ支援に努めている。	ご利用者は、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれており、ご利用者の希望に応じて、海水浴場へのドライブやコスモスなど季節のお花見、のど自慢大会の見物や米寿のお宮参り等の外出も行われている。外出の希望を伝えられない方についても、ご利用者の思いを汲み取りながら外出支援に取り組まれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でもお小遣い程度のお金を持参している方もおられ、自分の買い物やホームの必要品購入の際に金銭のやりとりをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段から気軽に電話の使用ができる様に声掛けを行っており、ゆっくり自室にて使用されている。また、遠方からの手紙の返事を書いたりしてやりとりを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の和室には仏壇、床の間、押入れ、テレビ等を設置して、家庭的な雰囲気作りに配慮している。玄関周辺には四季の花、部屋のテラスに野菜を植えたプランターを置き、畑には季節の野菜を植えている。廊下には、ソファやマッサージ機を置きつつろぐ場所がある。	木製の引き戸や木製の表札と、木がふんだんに使用されており、昭和時代の趣きを残している。広いリビングには、ソファや畳の間があり、思い思いの場所で過ごされている。畳の間には仏壇があり、ご利用者がお経をあげる姿も見られている。ご利用者に応じた他者との距離感や光の強さ、スリッパ等の生活音の大きさや換気、室温の調整等、細やかな配慮がされている。	ホームでは、別のグループホームからの見学者を受け入れる予定にしており、多くの方々にホームを見て頂くことで、職員間では気付くことができない部分の改善を図り、より良い環境作りに取り組んでいきたいと考えている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、一人ひとりの落ち着く場所がある。居間では、ゆっくりできる広さになっており、廊下には、ソファを置き好きな様に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前に本人、家族と相談しできるだけ馴染みの物品等を持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるように努めている。寝具類も落ち着いて安眠できる様に配慮している。	入居の際には、馴染みの物を持ってこられるよう、あらかじめご利用者やご家族に相談しており、ご家族の写真やテレビ、習字道具やラジオ、衣装箱やお仏壇を持って来られたご利用者もおられる。入居後も、ご利用者やご家族と相談しながら、それぞれのご利用者に応じた表札を居室のドアに飾ったり、居室に写真を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、マークを貼ったり場所がわかる様に矢印のついたボードを置いている。浴室は「ゆ」の文字を貼っている。洗面所は手洗い方法の貼紙や紙の使用方法も書きわかり易い様にしている。		

事業所名: ゆたっとうす

作成日: 平成 22 年 4 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-3	会議の場を通して、出席者の方から意見を色々と頂けれるようになり、参加メンバーさんの検討が必要とおもわれる。	ご利用者の状況やサービスの状況等について、会議に参加された方に、分かりやすく報告していきたい。	民生委員さんや家族の方や市の職員さん、地域の消防団の方にも参加を検討していきたい。	12 ヶ月
2	35-13	非常時に備えた食材や毛布等の準備と、ご利用者の連絡先が確認できる持ち出し用の個人のカードを作って行きたい。	災害時、昼夜を問わず、ご利用者が安全に避難できる様に、地域との関わりを増やしていきたい。	年2回は、避難訓練を実施し、地域の消防団や消防署近隣の施設との連携をもち、指導を受けたり助言してもらいたい。	12 ヶ月
3	36-14	職員には、自分で気付かない言動や行動があるのではないかと、ご利用者の気持ちに添えているのかを考える事が必要と思う。	職員皆でご利用者の気持ちになって、常に考えて暖かく接していきたい。	利用者一人ひとりに対する言葉掛けの仕方や接し方を施設内での会議を行い、ご利用者に聞き確認していきたい。	12 ヶ月
4	40-15	外食を予定していましたが、出来なかったため、今後に家族の方も一緒に出掛けたり、施設内での寿司作りなど食事を楽しみたい。	外食の楽しみ、ホームなどの食事の楽しみを持ってもらいたい。	外食では、事前にお店の方と打ち合わせをしたり、ホーム内では、バイキングで自分の食べたいものを好きなだけとってもらって、美味しく楽しく食べていただきたい。	12 ヶ月
5	52-19	別のグループホームより見学者を受け入れたりしながら、多くの方々よりホームを見ていただき職員間の気付かないところの改善を図り、より良い環境作りが必要と思う。	安心して何十年も暮らせる家を作りたい。	別のグループホームから見学者を受け入れる予定がある。それ以外にも、地域の方々やご家族の方などの意見も参考にしながら、より良い環境作りに取り組むたい。	12 ヶ月